

第 25 期 第 1 回 八尾市図書館協議会 会議概要

日 時 令和 8 年 7 月 30 日 (木)

15 時 00 分～17 時 00 分

場 所 八尾市立青少年センター集会室

出席者 (敬称略)

稲垣 房子	(元奈良大学 教授)
江岡 信行	(八尾市青少年育成連絡協議会)
坂本 篤史	(八尾市校長会)
西寺 美代子	(八尾市社会教育委員会議)
村松 功一	(八尾市 P T A 協議会)
木下 みゆき	(大阪大谷大学 文学部 日本語日本文学科 特任教授)
川原 亜希世	(近畿大学短期大学部 商経科 准教授)
戸倉 信昭	(大阪市立中央図書館 利用サービス担当課長)
大宮 隆義	(八尾市地区福祉委員長連絡協議会)
鈴木 縁	(公募市民委員)

事務局

太田 浩子	(教育委員会事務局副教育長)
川添 浩司	(教育委員会事務局次長)
永澤 行彦	(生涯学習課長)
上原 康男	(教育委員会事務局参事兼八尾図書館長)
浅田 耕司	(山本図書館長)
奥保 真一	(志紀図書館長)
鶴田 洋介	(八尾図書館主幹)
仲谷 智子	(八尾図書館利用サービス係長)
松本 繁和	(八尾図書館資料係長)
岡本 俊樹	(八尾図書館資料係長)
山口 みどり	(八尾図書館司書)
藤原 大輔	(山本図書館司書)
池防 治美	(志紀図書館司書)
川元 翔	(龍華図書館長：指定管理者)
長谷川 麻優子	(龍華図書館長補佐：指定管理者)

1 副教育長挨拶

2 会長・副会長選出

3 会長挨拶

4 議題

(1) 図書館の事業報告について

① 令和 7 年度 (2025 年度) 図書館年報 (資料 1)

② 龍華図書館の事業実績及び計画（資料２）（資料３）

③ 令和６年度大阪府公共図書館奉仕概況抜粋（資料４）

会 長：新しく 25 期に入ったので、各委員の所属団体での活動、地域活動の状況、特に図書館に関心のある事項等を交えて、各委員から自己紹介していただきたい。

委 員：小学校長として、学校図書館、図書室を有効活用しつつ、子どもたちに本に親しんでもらうため、ボランティアや地域と連携・協力して取り組んでいる。子どもたちに、如何にして、本に触れさせるかに関心があり、図書館の様々な事業・イベントを参考にできればと思っている。

委 員：5つの団体で活動している。団体では、次代を担う子どもたちのために活動している。夏休みには、読書をはじめ、エネルギー問題、環境、食、人権等、楽しみながら学べるよう活動している。また、悪質商法詐欺が流行っており、成人向けにその啓発を行っている。

委 員：PTA協議会で活動している。PTAの加入率が低下傾向にあり、形骸化しつつあると感じる。また、保護者が子どもを育むうえで、本質的な部分をしっかりと捉えるため、府のPTA協議会でも色々議論しており、各市町村の教育長に直接お話を伺う取組も始めている。

委 員：大学で図書館司書課程の専任教員になって11年目になるが、大学図書館員、ジェンダー問題の専門図書館員をトータルで27年務めてきた。学生たちに司書のやりがい、素晴らしさ、図書館の仕事が如何に人の支えになるかということを伝えるべく、日々奮闘している。

委 員：2000年から大学で司書課程の教員をしており、専門は図書館員の養成。八尾市の図書館で司書課程の学生をアルバイトとして受け入れてもらっている。図書館の運営で関心がある分野としては、図書館員の養成に携わっているので、職員の研修、利用者教育等に関心がある。

委 員：23期の途中から委員を務めており3期目。図書館司書職として入職し31年目となる。キャリアの半分は管理業務に従事。教育委員会では学校教育を担当し司書職の中でも異色の経歴。現在は、図書館サービス業務の統括を担当。第5期子ども読書推進計画の改定、読書バリアフリー計画の立案等大きな方針に係る仕事に従事。八尾市の図書館の発展にコミットできればと思う。

委 員：約15年間、地区福祉委員会の委員長を担っており、今回、地区福祉委員長の連絡協議会から会長の代行として参画。地区福祉委員会は、自治会、子ども会、民生委員等、地区の様々な組織を束ねて地域住民のコミュニティーを形成することを目的に活動。また、校区まちづくり協議会の会長職を担い、地域の安全・安心、危機管理計画の策定等に取り組んでいる。市民が進学、仕事等で八尾を離れても、将来、帰って来たいと思えるように、図書館には、地域の成り立ち、成長・発展、歴史について分かるように資料の充実を願う。仕事は1級建築士をしている。

委 員：山本図書館で小学生を対象に絵本の読み聞かせ活動をしており、八尾、山本図書館を利用している。英語の絵本についても、学年に応じて対応しており、その際、中央図書館も利用している。

委 員：青少年育成連絡協議会から参加しており、単一の子どもの会の連合チームとして、ソフトボール大会、綱引き大会等の行事を行っているが、年々、参加チームが減少しており、子ども会に入るメリットを考えて、参加する子どもの数を増やしていきたい。

会 長：皆さんの活動のバックヤードは様々で良い知恵を出し合いながら、議論していきたい。社会教育の一環としての図書館は、教育振興基本計画に基づき運営されており、その後期計画の策定に審議会委員として参画し、学校教育と生涯学習の中での図書館の重要性について意見を述べた。その概要版を参考配布しており、参照しつつ、フリーなトークで進めてまいりたい。

委 員：図書館年報には、貸出統計利用状況が細かく分類されているが、レファレンスサービスに関する

統計の記載が見当たらない。レファレンスの記録は、司書の専門性を生かしたもののだけでなく、利用統計、利用案内、所蔵調査等のクイックも含めて件数を取ることは、図書館の専門性を顕在化させるために欠かせない。また、新人職員の研修にも役立つため、年報にも記載頂きたい。

事務局：年報には、レファレンスの数値を掲載できていないが、4館で7,676件の実績がある。

委員：4館で7,676件ということなので、是非、実績を市民の皆さんにお示し頂ければと思う。

会長：レファレンスを重視しているのであれば、次年度から年報に加えるように検討願う。

委員：国立国会図書館のレファレンス共同データベースが使えると思う。一般のユーザーも使える参考業務の事例集で、図書館の登録数によって感謝状が頂けるので、図書館のアピールにもなる。

会長：国立国会図書館のレファレンス共同データベースは、無料で登録して、全国、全世界から見られる。例えば、「道鏡」って検索すると、八尾図書館が発信しているのが分かるような仕組み。

委員：年報10頁の利用者数が、コロナ禍以降、毎年減ってきている理由と、来館者数の増加に向けた図書館利用者に対するアンケートの実施状況について説明されたい。

事務局：利用者数は、コロナ禍以前に戻すべく取り組んでいるが減少傾向。国の有識者会議でも議論されており全国的な傾向。スマホの普及、活字・読書離れの傾向にあると認識。アンケートについては、数年前に来館者向け、非来館者向け、移動図書館の利用者向けに実施している。

会長：文科省が力を入れ、有識者会議を通じて、学校図書館と公共図書館の発展に向けた議論を重ね、報告書にまとめている。

委員：ある程度の年代になれば、インターネット等は、使いにくいこともあり、それならば、本を読みましょうと、団体では啓発させてもらっている。また、図書館では、読み聞かせや様々な行事、啓発をしていると思うが、その実施状況は如何か。

事務局：本、読書に親しむことにより、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を養ってもらうことを目標に、マンパワーの許す限りではあるが、精一杯行事に取り組んでいる。

会長：4図書館を回らせてもらったところ、様々なテーマ展示を実施しているが、各館の状況は如何か。また、イベント実施時に関連本を用意してもらいたい時の対応は如何か。

事務局：八尾図書館では、レファレンスの一環として必要な資料を請求頂ければ対応する。また、猛暑の中、まちなか避暑地として、本を読まなくとも来館し、涼んで頂けるように取り組んでいる。

事務局：山本図書館でも、テーマを頂ければ、他館の資料も含めて対応する。

事務局：志紀図書館でも、利用者が希望する本、必要な資料は提供させて頂きたい。

事務局：龍華図書館においても、他館同様、月替わりで様々な展示を行っており、相談があれば、テーマに沿った本を集めることは可能である。

会長：山本図書館の30周年記念特集「心にささった1冊」について、説明を求める。

事務局：平成8年開館以来、6月20日に30周年を迎えたため、司書職が記念行事を考える一環で、「心にささった一冊」をテーマに利用者アンケートを行ったところ、たくさんの応募があり、その内容を特集として取りまとめた。市内4図書館をはじめ、市内書店との連携取組により、アリオ八尾内の丸善書店にも配架・配布を依頼し、快諾頂いたところ。

会長：書店と図書館との連携は、文科省、経産省が力を入れている。町の本屋さんを大事にすること、ネットだけでなく、リアル書店からも買ってもらいたいと図書館員は思っている。

委員：本は、時の世相を表すもので、過去を振り返る時に出版年が貴重な情報源になる。書誌データとして、タイトル、著者、出版社のほか、出版年があった方が、より面白いものになったと感じる。

会長：龍華図書館における周辺の小中学校の学校図書館との連携について、報告願う。

事務局：近隣の永畑・龍華小学校、龍華中学校の国語の授業で図書館や電子図書館の使い方、障がい者サービスについて説明している。電子図書館の使い方は曙川中学校でも説明している。また、龍華・永畑小学校、龍華中学校の図書委員が作成した「みんなの推すすすめ本POP」を本と一緒に図書館内に展示している。POPづくりには、学校司書にも連携・協力してもらっている。

委員：年報を見ると、子ども行事だけでも、非常に参加人数が多いのが分かるが、参加人数以外の部分で、熱量が高いものや長く続いている行事等、人気の行事があればご教示願う。

事務局：毎週土曜日に開催のおはなし会は、継続参加される方もあり、好評。また、本を借りるたびにシールを貼付し一定数を集めたらプレゼントをお渡しするスタンプラリーが子どもたちに大人気で、毎年喜んで参加してもらっている。JR八尾駅との連携による鉄道まつりでは、二部制100名募集のところ、毎回すぐにチケットが無くなる大人気事業となっている。さらに、大人向けのお話し会にも多くの方に参加頂いており、大変人気のイベントとなってきている。

事務局：八尾図書館では、1階の一番目立つところに特集コーナーを設置し、6月の食育月間には、昭和20年代から現在までの給食献立の写真を展示し、クイズ形式で啓発を行ったところ、食育に関わる書籍の貸し出し点数がその間に約120冊増える効果があった。

委員：学校でも、食育だよりが配布されて、学校給食を子どもたちに考えさせるコンテスト的なことが行われていたが、中学生からは殆ど応募がなかったと思う。情報を発信する側（学校）が多くの情報を流し、受け取る側（保護者）が全ての情報を受け止めきれず、双方に課題があると思う。

事務局：情報発信については、図書館システムの更新に取り組んでおり、令和9年度での新システム移行に際して、LINEによる発信を新たに導入するために予算要求したいと考えている。

事務局：24期の協議会から、情報発信のあり方について多くの意見を頂いているところ。必要な情報を必要な方に届けるため、LINEの導入については予算獲得をめざして庁内調整に努める。

委員：年報19頁に電子図書館の利用統計で令和7年度末の合計タイトル数が12,630とあるが、電子図書館の利用状況は、年間で見たときに増加しているのか。

事務局：令和6年度と7年度を比較すると、若干減少しているが、学校の児童・生徒にIDを配布してからは、読み放題パックにより、同じコンテンツを同時に何度でも見れるサービスとなっていることから、「朝読」の時間等を中心に、たくさん利用されている状況は変わらず続いている。

委員：スマートフォンの使い方やおいしいコーヒーの淹れ方等、企業との連携のイベント誘致の手法は、如何に取り組まれているのか。

事務局：大阪府のホームページ上で出前講座に対応している企業一覧が掲載されており、参考にしている。また、市役所に公民連携の担当部署があり、そこからの紹介で連携しているものもある。

事務局：コーヒーの淹れ方講座については、市役所の観光行政の担当部署からの紹介で実現したイベントになる。他には、しおんじやま古墳学習館の指定管理者から声かけを頂き、大阪やおミュージアムフェスティバルに参加したり、図書館スタッフの紹介により護身術イベントを実施した。

会長：年報9頁の資料費当初予算に「充実基金分」とあるが、これについて説明願う。

事務局：図書館資料充実基金という基金があり、ふるさと納税を通じた八尾市への寄付金の一部をその基金で受けて、資料費の所要の予算を基金から繰り入れて充当しており、その金額を年報に「充実基金分」として掲載している。基金から繰り入れて充当した金額は、主に一般図書の費用に充てている。

委員：年報8頁、充実基金の予算額1,020万円に対する決算額523万円の予決乖離の理由を説明願う。

事務局：令和7年度に、別途、企業からの大口寄付金があり、当該寄付金から資料費に充当した金額が約

500 万円あったことから、基金からの充当分が予算額の半分程度の執行に留まったもの。

委員：イベントの広報について、インターネットは、興味を持った人しか見ないし、自治会の加入率が市全体で5割を切っている中、どのように行っているのか。

事務局：図書館のホームページ、市政だよりのほか、館内への掲示等により案内している。

委員：子ども会活動でも、会長が情報発信してくれている地区は、参加人数が多い。

委員：学校司書について、モデルケース的に司書を配置している小・中学校があるが、市内の他の学校にも学校司書を配置していく予定はあるのか。4館の図書館との連携は如何か。

事務局：龍華中学校区に学校司書を配置しており、他の校区はサポーターとしてボランティアを配置している。教育委員会としては、最終的には、学校司書を全市展開していくべきと考えている。また、図書館司書とも連携を進めていきたいと考えており、予算要求をしているところである。

会長：文化的背景が日本ではない子どもたちへの支援について、学校との連携が大切だが、如何か。

事務局：支援の必要な子どもたちに添った教育を進めており、その中には、図書の要素も入っていると思うが、教育現場にいないもので、現場にいる委員の方から説明願いたい。

委員：子どもたちの読書離れは、全体的には進んでいると感じる。今の子どもたちは、小学生からスマホがある世代で、受動的に情報を受け取り、能動的にコンテンツに関わることをあまり経験しないまま思春期に入っていく世代。本を楽しむためには、自分から読むという能動的な活動、エネルギーが要るからこそ、読書には濃密な楽しみがあるが、そういう機会は減っている。日本語が難しい子どもたちは、読み聞かせが大好きで、本を読んでもらうことはすごく楽しいと感じている。読書離れは進んでいるかもしれないが、読書の機会が減っているからこそ、紙の本の価値は上がっていると感じる。子どもたちは、図書室が大好きで「学校の中で好きな場所はどこか」とアンケートを取ったら、自分の教室以外では、図書室が断トツで人気が高い。保護者は小さい時から子どもにスマホを与えているが、必ずしもそれを「良し」とはしていない。本は読んであげないといけないので、ついスマホに行かざるを得ない葛藤があると感じる。子どもは、みんな本は好きだし、親も与えたいと思っている。その価値は分かっているが、触れられる機会は減ってしまっている。教員も図書室、図書館が大好きで、そこで過ごす時間が贅沢な時間となっている。学校司書は、図書室に常駐しているのが絶対に望ましいが、予算的には難しいと認識している。情報発信については、昔は子どもたちに手紙を渡すと、親に手渡らないことがあり、今はスマホで届けるようにしたが、届いた情報を開いてくれない状況がある。

委員：絵本のボランティアのほか、耳が聴こえ難い子どもたちのために、小・中学校で要約筆記をしている。中学校の終業式での校長先生の言葉から、今の中学生には誘惑が多く、正しい知識の有無で未来が違ってくると感じた。図書館が夏休みの子どもたちの1つの居場所になればと思う。そのために、私たち図書館に関わるボランティアも一緒に考えることができたと思う。今年から、各館でボランティア団体との交流もあると聞いており、ボランティアメンバーであるお母さんの生の声も聞いてもらい、協力していきたい。

会長：フリートーキングになったが、非常に貴重なご意見、委員の皆様から頂戴しました。

委員の皆さんが図書館の味方になって、協力して頂ければ、実を結ぶのではないかと思います。

最後に事務局から連絡事項を。

事務局：次回の図書館協議会は、年明け3月頃を予定しており、後日、会長と日程調整のうえ、連絡させて頂く。

以上